

令和4年度 第1回 吉田島高等学校運営協議会議事録

開催日時：令和4年7月1日 15:30～

開催場所：6棟3階福祉実習室

1. 開会 副校長挨拶により開会

2. 校長挨拶 岩崎校長

委員の皆様こんにちは。本日は暑い中お集まりいただきありがとうございます。昨年度より着任いたしました2年目になります。コロナ禍の教育活動について、感染防止の観点から大人数での活動の制限などがありますが、感染状況も昨年に比べるとだいぶ緩和されたということで4月には久々の遠足を実施しました。

3年次生は昨年度修学旅行を行うべきところではありましたが、昨年の秋に本年4月に一旦延期しました。その後、先を見通せないとのことで中止をしました。その代替として遠足を計画し、コロナがだいぶ落ち着いたということもあり1、2年次生も同日に遠足を実施することができました。生徒にとって久しぶりの学校外の活動となりました。

2年次生は今秋の10月に北海道の道東方面に修学旅行を予定しています。コロナは増加傾向にありますが、社会全体では経済活動のバランスという観点で、緊急事態宣言や蔓延等防止などの制約が出ない限り、修学旅行を実施したいと考えております。

5月の終わりには体育祭を開催しました。天候の関係で2日間に分けての開催となりました。初日は予行練習でしたが本番に見立ててグラウンドにて実施、2日目は体育館で変則的にはなりましたが体育祭を実施することができました。

コロナ前とは言えませんが、学校の教育活動も少しずつ元の形に戻ってきました。本日の学校運営協議会では、本校の目標や各グループからの目標、委員の皆様からご覧頂いた本校の教育活動について、皆様から忌憚のないご意見をいただきたく思います。本日は短い時間ではございますが皆様よろしくお願ひします。

3. 委員の紹介及び委嘱

副校長より「吉田島高等学校運営協議会」名簿に沿って委員の紹介。

校長より委員の皆様へ教育委員会からの委嘱状を手渡す。

4. 事務局紹介

(副校長より)

「令和4年度 吉高運営協議会組織図」より、グループリーダーの紹介。

配付資料の確認。

「令和4年度 吉田島高等学校運営協議会 次第」の確認。

(露木総括教諭より)

企画情報Gから事務局記録係紹介

5. 会長選出

校長からの推薦により、昨年度に引き続き、熊沢茂様に決定。

(熊澤会長より)

活発で効率的な協議会にしていくために、皆様ご協力をよろしくお願いいたします。

6. 協議

(1) グランドデザイン

(校長より)

グランドデザインは本校の教育活動を行うに当たっての屋台骨のようなものであり、ここをしっかりと確認していかないと次に進まないというもの。スクールミッションおよびスクールポリシーの2つについては昨年度の学校運営協議会の中で皆様方から御意見を頂いたものが掲載されている。基本はスクールミッションおよびスクールポリシーに基づいて学校の教育活動を

実施している。スクールミッションは、従来本校が置かれていたミッションに新たなものが加わった。スクールポリシーについては、本校でこのような生徒を育てるというグラデュエーションポリシー、教育課程に関する方針であるカリキュラムポリシー、入学者の受け入れに関する方針、令和5年度入学者に対するアドミッションポリシー、中学校3年生に対して本校ではこのような生徒を求めているというメッセージを、各中学校や説明会などでよりわかりやすく説明していくことになる。

教育目標や校訓、設置学科などについては従来通り変わらない。スクールポリシーを作る際にSDGsの考え方を取り入れている。持続可能な開発目標を推進するということが世界的に行われている中で、様々な場面でSDGsが求められている。その中で本校の教育活動はSDGsの17の開発目標のどこに当たるのか、ということの中学生や本校生徒にわかりやすく説明するために、都市農業科の教育内容はどれに当たるか、食品加工科の教育内容はSDGsのどの開発目標に当たるのか、明確に示した。SDGsというのは捉え方の幅が広いので考え方によっては、かなりの項目が該当する。生徒にこれから本校の学びの場でSDGsを理解していくということは社会に出ていくために大事なところである。育むべき生徒像、本校の農業と家庭科に関する専門高校でこのような生徒を育てていくという明確な目標の元、職員がこのことをまずは第一の目標としてそれぞれ教育活動を行っていくことが大事であるということでグランドデザインをまとめさせていただいた。

(2) 学校教育計画

(副校長より)

学校のミッションに沿って、本校の学校教育目標やグランドデザインを決定している。学校要覧の各グループの目標設定については、各グループリーダーから説明する。

(3) 令和4年度学校目標

①教育課程学習指導の目標

(学事グループリーダー 阿出川総括教諭)

令和4年度の学校調査報告書の目標設定1番の学習指導については、昨年度の総合評価を受け、本校の学びの中で生徒達は思考力・判断力・表現力などが高まった感じはあるが、基礎学力の定着については課題があるということがわかった。専門性を高めるために基礎学力の定着が望まれる。それを受けて今年度は専門学科の特性を活かし、ICT関連の充実を図りながら外部機関との連携を図り、その中で専門学科としての学びを充実させていく。学習支援については、専門機関の先生方に相談しながら6月30日に「教えて考えさせる授業の研修会」を行い、これを活かして今後深い理解を伴った習得を目指した授業改善に取り組んでいく。本校の生徒は勉強に苦手意識のある生徒が多い中、それによって授業の中で生徒が「できた」や「わかった」といった達成感を得られる授業実践をしていく。専門学科での学びを充実させるために、生徒がつまづいているところをその都度学び直せるような教科を横断しての取組を今後検討していけると考えている。

(生徒活動リサブリーダー 小野教諭)

今年度もだいぶ緩和の兆しはあるが、引き続きコロナ禍ということで余談を許さない状況である。その中で、各学校行事はどんなことができるか、昨年度から引き続き制約がある中で、生徒を中心に何ができるか、どういうところで楽しむことができるか、テーマ設定をしていく。体育祭はすでに実施をしているが、実行委員が主体となって、無事終えることができた。この先、文化祭やスポーツ大会、それ以外にも地域のクリーン作戦などのボランティア活動も実施できるように生徒会中心に話し合っている。生徒が中心にできる行事を最大限できる範囲で行っていききたい。

②生徒指導・支援

(生徒活動・支援グループリーダー 小澤(清)総括教諭)

昨年度は、内規の改正に取り組むことができた。今後は、生徒や保護者の意見を取り入れつつ、実態にあったものに変更していくことを目標としている。グループでは、生徒指導と支援

の両方の取組がある。支援については、それぞれの生徒に必要な支援について外部機関等を利用しながら行っていく。先日の西湘地区の教育相談コーディネーターの会議で、学校のルールに則らなかった生徒を指導する生徒指導より、教育相談・支援が大きい部分を縮めているとのことであった。本校は専門学科高校であるため、社会に出たときに職業人としてしっかりとした理念を持って欲しいため、生徒指導の視点も重要ではあるが、様々な環境に置かれている生徒の支援に重点を置いて取り組んでいこうとしている。

③進路指導・支援

(進路指導・支援グループリーダー 片山総括教諭)

昨年度から引き続きの目標に近いものがある。ガイダンス等を実施し、生徒に教員以外からの刺激を与え、自分の進路を考えてもらう機会を多くしようとしている。専門科目などの授業において職業感や勤労感の育成も目的に入っているため、就職指導に活かしていくための話をしてもらうようお願いしている。現在は、7月21日に1,2年次生が進路についてガイダンスを実施する計画が進んでいる。3年次生は小田原の青色申告会で実施している租税教室があるので、税金を納めることを通して社会に貢献するという授業を計画している。それを受けて、働くということを少しでも理解して欲しいということで話を進めている。3年次生のキャリアグループの中からライフデザインを考えなければいけないということがあったので、横浜銀行とお金の使い方を中心にしながら契約の話をしてもらい、自分で責任を取ることにについての講演を実施した。その中で生徒達からは、18歳で本当に成人なのだという意見が多く出て、実感を深めたようである。今後も引き続き、生徒が実感できる内容で企画していきたい。

④地域との協同

(企画情報グループリーダー 露木総括教諭)

I C T関連では、今年度より1人1台P Cが始まっている。145名中75名が端末を購入し用意している。端末を貸し出している生徒が54名、まだ登録されていないものを含めると、40%近くの生徒が学校の端末を借りている状況である。家庭で購入し用意してもらった端末を有効に使っていこうと思う。具体的には、各家庭等への連絡をより確実に届けられるようにGoogle Classroomを使って行う。授業においてもClassroom、Googleを中心に活用し、用意してもらった端末を有効に活用していきたい。学校目標にもあるように、I C Tの利活用を進め生徒の基礎学力の定着を図っていく。

(専門教育・広報グループサブリーダー 小澤教諭)

広報業務と入選に関わる業務を取り扱っている。地域に開かれた学校とともに、Twitterについては、今年度の開成駅前の花壇、生活科学科、松田山の実習風景など、その日のうちは難しいがなるべく迅速に発信できるようにしている。本日配付した今年度の学校紹介用のチラシや学校案内については、納品されたばかりのもので、昨年のもを更にブラッシュアップし5枚のカラーの資料となっている。今週から中学校に進路の説明会に行く予定であり、これから中学校訪問を行う予定である。

⑤学校管理学校運営

(管理グループリーダー 菊池総括教諭)

管理グループでは、環境整備と防災業務を行っている。昨年に引き続き、開成町の防災管理との協議を定期的に行っている。開成町からの学校への要望等について打ち合わせている。また、校内の危険箇所を把握し、安心安全な環境を実現する。実際に色々なところで地震が発生しているが、生徒に危険がある箇所を洗い出して改善していく計画をしている。実際にできることから進めて、例えば天井に吊るしていたブラウン管テレビの撤去をお願いしたりしながら進めている。

○質疑応答

(山口委員)

管理Gへの質問。

実際に地震が起きた場合、学校はどのようになるのか。帰宅困難な生徒が出てきて親が迎えに来られない時、子どもたちは学校で待機しているかと思うが、地域の方も避難箇所として集まってくるのか。それとも生徒の待機場所として運営するのか。実際に避難した時に防災食の乾パン等はどうなっているのか

(菊池総括教諭)

災害があった場合には、生徒優先になる。毎年、年度初めに生徒の帰着地届けを出してもらって、学校に残留するのか、親の迎えを待つのか、親戚の所にくのかなど、各家庭の希望を集めている、それぞれの状況によって対応が別れてくる。基本的には、吉田島高校近辺の住民が避難して来たら体育館を使うことになっている。本校としては、近隣住民に体育館の開放を行い、開成町の担当者が来て運営を行う。生徒は、校舎本館を使って避難場所の棲み分けをする。食料は各生徒3日分の水と食料を入学時に購入してもらって防災倉庫で管理している。

(熊澤委員)

18歳成人となったが、学校として選挙に対してどのような形で指導しているのか。担任、学校全体、教科ではどうか。

(片山総括教諭)

衆院選がある時に、神奈川県立高校では模擬投票を行っている。新聞記事を利用して各政党の意見をまとめて、模擬投票してもらおうと考えている。キャリアグループでやっているが、社会科の教員に身近な話題として授業との関連を図り扱ってくれるようお願いしようとしている。その他としては、9月末の前期の終わりに開成町の選挙管理委員に、投票に関する啓発活動をしていただく依頼をしている。今回の18歳成人と選挙、高校生の投票率などについて話していただき、次回以降の選挙では投票に行くようにという話をしてもらおうよう計画が進んでいる。

(校長)

18歳成人については、民法改正が行われ、いわゆるローンを組むことができるようになり、選挙権も18歳に引き下げられた。模擬投票として投票箱を借りて投票を行うが、18歳になると実際に投票する。お金の部分についてはローンが組めてしまう。クレジットカードを作れるという年齢になっている。高校3年生の早い段階で横浜銀行に講演に来てもらい、契約というのは何なのかについて話をしてもらった。18歳成人については心配をしているし、校長会議でも消費者トラブルが起こっているとの情報があり、他校では実際に18歳になった生徒が化粧品を契約してしまうトラブルがあった。クーリングオフがあるが、20、30歳以上の成人でもトラブルがある中で、学校としては、その点が非常に難しい状況である

(熊澤会長)

全体で盛り上がって決まったのではなく、国際的に18歳以上が成人という風潮で棚ぼた的に来た。高校生は中途半端で大変だと思う。

(小嶋委員)

グランドデザインについて、スクールミッションやポリシー、校訓の至誠勤労とあるが、生徒たちが至誠勤労の意味を捉えて、教育されて卒業しているのか。至誠勤労という意味を生徒たちがどこまでわかっているのか、漠然としていたら意味がないのではないかと。

(校長)

校訓というのは教育目標に次いで大事である。二宮尊徳の教えで、入学式でも校長挨拶で至誠勤労の意味を新入生に話す、入学式で話しただけでは印象に残らない。人材育成の中で言

業も大事だが意味が大事と考える。日頃職員が授業の中で教えていることに加え、折を見て職員からも校訓について話してもらおうようにしていく。学校の教育活動全体から生徒に意味を覚えてもらう。様々な部分で校訓の至誠勤労の話は繋がっていく。このことについては積極的に話をしていく。

(小嶋委員)

具体的にわかりやすくしてもらえたらと思う。中戸川校長の時に同窓会予算から体育館のステージ横に校訓の掲示を行った。至誠勤労の重さを伝えてほしい。私が在学中もずっと至誠勤労って何だろうと思っていた。職業人となってその言葉の重みがわかってきた。

(熊澤会長)

校長が話したが、直に指導に当たるのは教員なので、先生方から、特に実習や掃除などのタイミングで個々に指導してほしいと思う。

(4) 不祥事ゼロプログラム

(副校長より)

本校でも不祥事をゼロにしようと時機に応じた研修を職員会議で行っている。昨年度、県から不祥事防止会議を校内でも設置するようにと通達があり研修会を開いている。会議の構成メンバーは管理職、事務長、総括教諭である。研修等を通じて教員の意識を深めていく。中でも大切なこととして、職場のパワハラやセクハラ、マタハラの防止、生徒へのわいせつ行為等の防止、体罰などの禁止、入学者選抜による事故防止、特に入学者選抜においては、中学生の一生を変えないようマニュアルに則って慎重に進めていく。個人情報保護については、できるだけ個人情報の持ち出しをしないという色々な対策をしている。様々な事故・不祥事を防止するという事について毎月1回職員会議を通して研修を行っている。最近話題になっていることもあり5月には職員全員がわいせつ事案に特化した研修を行った。不祥事ゼロプログラムは、今後3回に分けて今年度の検証をおこなっていききたい。第1回の検証は9月末までに職員で検証し、12月までに修正を行う。第2回の検証については12月までに実施し2月までに修正を行う。3回目は3月に実施しその結果をホームページに掲載する。昨年度の検証結果と今年度の不祥事ゼロプログラムはホームページに掲載されているので見てほしい。ちょっとした心の隙で不祥事は起こりうる。不祥事はあってはならぬことなので学校全体で注意して取り組んでいく。職員同士でコミュニケーションを取って風通しの良い職場を目指している。

(5) その他

(教頭より)

本日の記録についてはまとも次第送付させていただくとともに、ホームページに掲載させていただく。

○次回の吉田島高等学校運営協議会日程確認

- ・第2回 令和4年10月29日(土) (文化祭一般公開日)
- ・第3回 令和5年3月20日(月)

7. 閉会

副校長挨拶により閉会